

講師

## ブラウン馬本 鈴子

### ■ 学歴

---

1. 2006年 英国イースト・アングリア大学大学院人文科学研究科文学専攻（博士課程前期）修士（文学）
2. 2008年 福岡大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻（博士課程後期）博士（文学）

### ■ 学位

---

1. 博士（文学）

### ■ 研究分野

---

1. イギリス文学
2. イギリス文化

### ■ 研究キーワード

---

1. ドリス・レスリング
2. ジェイン・オースティン
3. ジェンダー

### ■ 研究課題

---

1. 主に現代の女流イギリス文学に関する研究
2. 女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析

### ■ 担当授業科目

---

1. 英語文学 I
2. 英語文学 II
3. 初年次セミナー I
4. 初年次セミナー II
5. TOEIC 演習 I
6. TOEIC 演習 II
7. 初級英文講読
8. 専門演習 I
9. 専門演習 II
10. 卒業研究
11. リーディング IV
12. 英検演習 II

### ■ 授業を行う上で工夫した事項

---

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【英語文学 I・II】</p> <p>英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学 I」から「英語文学 II」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である <i>The Tale of Peter Rabbit</i> を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料 (DVD) を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。対面授業の中でも資料のアーカイブや課題の提出場所として、Google Classroom を効率良く使った。</p>
2.	<p>授業科目名【卒業研究】</p> <p>前期には、専門演習 I, II を得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターセッションの練習会も行った。</p>
3.	<p>授業科目名【専門演習 I・II】</p> <p>前期から後期にかけて、イギリス現代文学の短編集やジェイン・オースティンの『ノーサンガー・アベイ』を読み、ゼミの中で調べてきたこと、まとめあげたこと、疑問に思ったことなどのディスカッションを行った。またゼミの初めには、各自が持ち寄った新聞記事を紹介し合い、社会現象を分析した。またその新聞の活動に加え、就職活動を意識して SPI 対策と TOEIC 練習を始めた。</p>
4.	<p>授業科目名【初年次セミナー I・II】</p> <p>通年を通して、テキスト『知へのステップ』をベースに、基礎的な学習スキルや、大学での授業の受け方、生活の送り方、計画の立て方についての概論を教えた。また書き込み式の『マイキャリアノート』を使い、学生個人個人が独自の思いを綴り内省を行ったり、キャリアへの計画、調べ物を行なった。前期後半では個人の、後期後半ではグループでのプレゼンテーションを行い、前期では主にパワーポイントで、後期には Google スライドで発表を行うことで、自分たちで決めたテーマに沿っての研究を行うミニプロジェクトを完成させた。またそれぞれの発表についてのフィードバックを Google クラクルームのアンケートシステムを使ってクラス全員で行い、その結果で学んだことをレポートに課した。後期では外部講師も招いて、プレゼンテーションのお手本として、デート DV に関するワークショップを行ってもらった。</p>

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等 (任期)
1.	2001 年 10 月～現在に至る	日本英文学会九州支部	支部評議員 (なし)
2.	2006 年 10 月～現在に至る	映画英語教育学会 (ATEM) 九州支部	
3.	2015 年 11 月～現在に至る	日本オースティン協会	

## ■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
<b>（著書）</b>					
1.	特になし				
2.					
3.					
<b>（学術論文）</b>					
1.	特になし				
2.					
3.					
<b>（翻訳）</b>					
1.	特になし				
2.					
3.					
<b>（学会発表）</b>					
1.	特になし				
2.					
3.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

<b>（1） 共同研究</b>				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.	特になし			
2.				
3.				

<b>（2） 個人研究</b>				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.	特になし			
2.				
3.				

## ■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	特になし		
2.			
3.			

## ■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022年4月～現在に至る	公開講座委員	委員長（2024年4月～現在）
2.	2022年4月～現在に至る	研究起用委員	
3.	2022年4月～現在に至る	1、2年生アドバイザー	
4.	2023年4月～2025年3月	就職委員	